

姉妹・友好都市

SISTER CITIES NEWS

ニュース

協会報

第 10 号

昭和63年 5月14日発行

編集・発行

茨木市国際親善都市協会



茨木神社でミ市へ送るビデオ撮影をする西陵中生

目次

- 市制施行40周年記念事業あれこれ（広がる国際交流の輪）…………… P 2 ・ P 3
- 国際交流の役割担い早や8年（国際親善都市協会の紹介）…………… P 4 ・ P 5
- ミネアポリス市へ友情の千羽鶴 …………… P 6
- 西陵中生が学校紹介ビデオ制作 …………… P 7
- 施設をたずねて（大阪国際研修センター）…………… P 6 ・ P 7
- 国際交流の足あと、投稿依頼、寄付紹介…………… P 8

私たちの“ふるさと茨木”は、本年1月1日、「市制施行40周年」を迎えました。

茨木市では、この記念すべき意義ある年を市民こぞって祝い、新たな出発点として21世紀へ飛躍する動機づけとするため、各種記念行事・事業が計画されています。

中心となる催しは、11月3日（文化の日）に予定されています「市制施行40周年記念式典」です。式典には、市民各界各層の皆さんに集まっていただくとともに、姉妹都市ミネアポリス市からドナルド・M・フレーザー市長ご夫妻、アリス・ラインビル市議会議長ご夫妻、また、友好都

市安慶市から謝永康市長、潘忠堯人民代表大会常務委員会主任（日本の市議会議長にあたります）が、お祝いにかけていただける予定になっています。

本協会では、40周年の意義と喜びを会員だけでなく、国際化社会にふさわしい「市民と市民」の交流、いわゆる「民際交流」となるよう、姉妹・友好都市との交歓交流を展開してまいります。

市制施行40周年記念（協賛）事業を中心に、今年度に予定しています協会事業を、以下にご紹介いたします。

21世紀への 新たな出発点へ

市制施行40周年記念事業



3位のメダルを受ける昨年のサッカーチーム

広がる国際交流

★ミネアポリス市へ少年サッカーチームを派遣……7月

今回で3年連続3回目の派遣。昨年第3位という輝かしい成績をおさめた「USA杯少年サッカー大会」に18人の中学生が参加します。

サッカーの試合だけでなく、受け入れチームでのホームステイにより、海を越えた友情を培います。

★安慶市へ市民親善訪問団を派遣……5月

協会会員と市民から公募した初の民間訪問団を派遣。安慶市では、青少年宮の見学、長江（揚子江）の遊覧、市内見学などが予定されており、市民との交流により、日中友好を深めていただきます。

また、上海、蘇州、南京なども訪れ、新生中国の現状を視察していただきます。

★ミネソタ州教育視察団の来茨……7月

ミネアポリス市とその近郊都市の中学校教師や教育関係者8人が、日本の障害者教育、塾などの視察のため来茨します。

★ミネアポリス市少年野球チームの来茨……7月

4回目の来茨になるゴールデン・ゴファーズ少年野球チームが、中学生野球チームとの親善試合をはじめ、バスケットボール、バレーボー

ル、タッチフットボール、水泳の交歓試合、ホームステイなどを通じて親善を深めます。

試合日程、球場などの詳細は、市広報紙などでお知らせします。

★姉妹・友好都市の市民代表を市制施行40周年記念式典に招待……11月3日（文化の日）

姉妹・友好都市の盟約を交わしているミネアポリス市と安慶市から市民代表を招いて、11月3日に行われる記念式典にご列席いただき、21世紀に向けて新たな発展を誓い合います。

ミネアポリス市からは、市長ご夫妻、議長ご夫妻と市民親善訪問団、安慶市からは、市長、人民代表大会主任と人民政府代表団の来賓が予定されています。



—昨年（2007年）のゴルフアースとの親善野球試合

あれこれ

の輪



市制施行40周年
シンボルマーク

公演を、安慶市人民政府の全面的なご協力により再び皆さんの前で披露するものです。

豊かな情感を伝える中国演劇のルーツ「黄梅劇」と鍛え、磨きぬかれた伝統の妙技「曲技」を心ゆくまでお楽しみください。

なお、今回の公演は、団員・演目とも新たに準備されて

いますので、前回ご覧いただけなかったかたはもとより、ご覧いただいたかたもぜひもう一度ご来場ください。

詳しくは、市広報紙などでお知らせします。

★安慶市へスポーツ交流訪問団を派遣……3月

中学生・市民からなる初のスポーツ交流訪問団を派遣し、中国の国技ともいえる卓球と最近めきめきと実力を上げてきている水泳の2種目の交歓試合を行います。

<40周年シンボルマーク>

このマークは、いばらき市の「い」と40周年の「40」を組み合わせたもの。

そのイメージは“温かい心の通った人間都市”を市民的目標に、21世紀へむけて飛躍する茨木市の姿を「鳥」で表現。

テーマカラーは、スカイブルーとし、鳥がはばたく大空を象徴しています。

★安慶市黄梅劇・曲技公演……11月5日、6日

本協会の40周年記念事業の最大のイベントとして、「黄梅劇」と「曲技」の公演を、11月5日（土）、6日（日）の両日、市民会館大ホールにおいて行います。

これは、一昨年10月に本協会が行いました同



好評を博した前回の黄梅劇公演

国際親善都市協会

民際交流の役割担い

今から10年前、茨木市の市制施行30周年記念事業の一環として企画された「海外姉妹都市提携事業」は、アメリカ・ミネアポリス市との姉妹都市提携により実を結びましたが、本協会は、両市間の交流を民間レベルで推進していく母体として、昭和55年10月2日に設立されました。

当初は「茨木市姉妹都市提携協会」という名称でしたが、昭和57年に「茨木市姉妹都市協会」と改称され、昭和61年には、茨木市と中国・安慶市との友好都市提携に伴い、「茨木市国際親善都市協会」と再び改称されました。

発足時に55であった会員数も、現在では約700にふくらみ、今では、茨木市の国際交流の窓口として皆さんに知られるようになりました。

しかし、どういう組織でどのような活動をしているのかということをご存知のかたはまだ少ないようです。

本協会の活動は、1956年にアメリカの故アイゼンハワー大統領が提唱した“People to people program”に立脚し、市民相互の理解親善を深め、文化・スポーツ・経済等の交流を盛んにし、ひいては世界平和に寄与することを目的としています。

その具体化として、次ページにあげているような事業を行っていますが、特に、明日を担う青少年を対象とした事業には力を入れています。

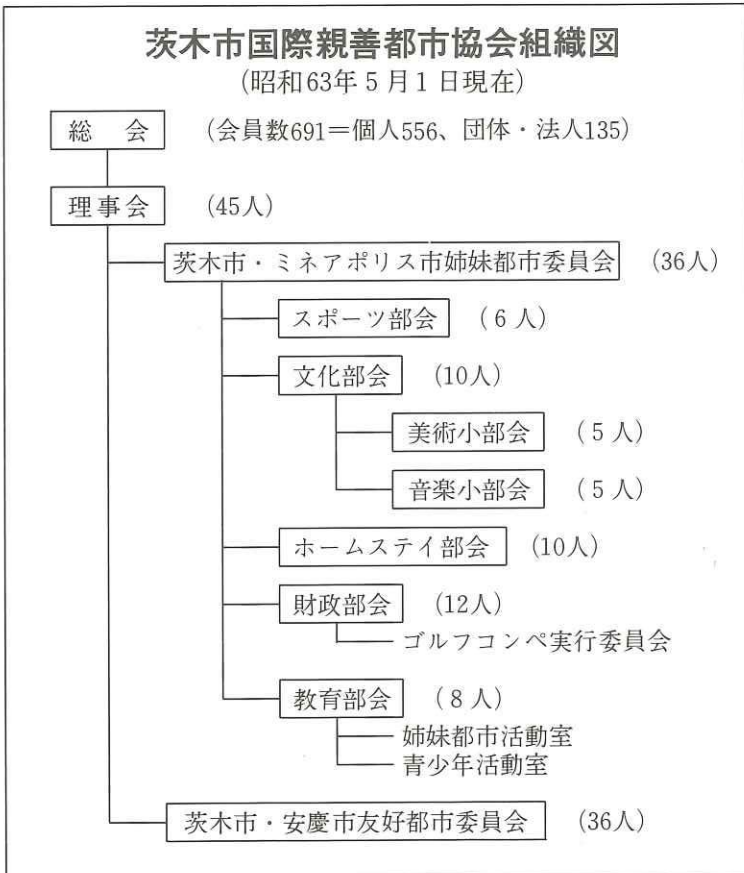
また、それらの事業の進めかたについては、左の図にあるように、提携の都市ごとに置いた常任委員会とその中の専門部会で検討を重ね、広く市民の皆さんのご意見を取り入れるようにしています。

活動資金は、茨木市からの補助金、会員の皆さんからの会費などで賄っていますが、協会内に設置した基金の運用益も貴重な財源としています。

この基金は、安定した資金の確保をめざし、ゴルフコンペなどの収益金や寄付金などを毎年積み立てているものです。

今後とも、皆さんのご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

茨木市国際親善都市協会組織図
(昭和63年5月1日現在)



早や8年

協会の事業紹介

1. 姉妹都市・ミネアポリス市との友好親善交流
 - ・野球、サッカー等のスポーツ交流
 - ・市民親善訪問団の交換
 - ・ホームステイによる交流
 - ・書画の交換
 - ・文通の交流
2. 友好都市・安慶市との友好親善交流
 - ・市民親善訪問団の派遣
 - ・中国文化、芸術の紹介事業の実施
 - ・書画の交換
3. 西ドイツ・リュエベック市ほかの都市との交流
 - ・書画の交換
4. 「協会ゴルフコンペ」の開催（6月）
5. 「協会英語スピーチ大会」の開催（11月）
6. 留学生に対する奨学金の支給
7. ホームステイ家庭の登録募集
8. 協会報「姉妹・友好都市ニュース」の発行

会員募集

本協会では、姉妹都市・ミネアポリス市、友好都市・安慶市との交流をはじめ、国際親善に熱意を持っておられるかたがたの入会を心からお待ちしています。

会員には、年2回発行しています協会報などによる本市国際活動情報の提供、会の催す姉妹・友好都市との交流行事ほか各種行事へのご案内などの便宜をはかります。

〈会費(年額)〉個人会員（一般） 2,000円
 （学生） 1,000円
 団体・法人会員 一口 5,000円

〈申込先〉協会事務局（市役所3階自治推進課）

姉妹都市活動室

姉妹都市活動室は、姉妹都市活動の原点である“People to people”運動に立脚し、市民レベルでの相互理解を深め、ひいては国際平和に寄与することを目的としています。

毎回外国人ゲストを迎えて、英語力及び国際感覚向上のため、講演会、研究会などを、原則として英語で行っています。

例会は月2回、茨木市福祉文化会館内で行っていますので、気軽にご参加ください。

〈例会〉 木曜会 第1木曜日 10時～12時
 土曜会 第3土曜日 14時～16時

〈会費(年額)〉正会員 1,000円(18歳以上)
 準会員 500円(中・高校生)

参加ませんか

青少年活動室

中・高校生が気軽に参加でき、楽しみながら英語に親しむ“楽しく気軽なサロン”を開いています。

外国人ゲストを迎えて、話したり、歌ったり、ゲームをしたり、学校の授業とは一風変わった英語の勉強会です。外国の人と話したことのない人や、今春から英語を学びはじめた人も大歓迎です。

さあ、今日から君も一緒に国際人をめざしましょう！

活動は、月1回、原則として第4日曜日の午後2時から主に茨木市福祉文化会館で行っています。

会費は無料、服装などは自由ですので、友達をさそって、いつからでも気軽に参加してください。



病氣見舞へ 友情の千羽鶴

できあがった千羽鶴と活動室会員

“マーサさん、早く良くなってください。”との願いを込めた千羽鶴が、このほど、ミネアポリス市のジョー・エラ・マーサさんに届けられました。

マーサさんは、3年前と昨年に、ミネアポリス市文化交流訪問団の一員として来茨。茶華道、民

謡、押絵などの日本伝統文化を学ぶとともに、ホームステイなどで茨木市民との交流を深め帰国されました。

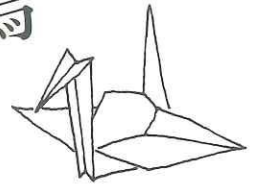
その時に、通訳、ホームステイなどのお世話をしたのが姉妹都市活動室のメンバーで、マーサさんが今年初めに心臓の手術を受けられたことを知り、月2回開いている例会でお見舞いの千羽鶴を

姉妹都市活動室が

贈ることを決めました。

ひとつひとつに願いを込めて折られた千羽鶴は、3月に完成し、メッセージを添えて届けられましたが、温かい友情のしるしに感激したマーサさんからは、さっそくお礼の手紙が送られてきました。

毎年広がる友情の輪に、またひとつ大きな花が咲きました。



新しい研修員を迎えてのウェルカム・パーティー

です。

毎年 200人前後の研修員を受け入れられていますが、現在、16カ国から31人が大阪大学微生物病研究所や

施設を
たずねて

地域で
国際

研究機関で6ヵ月から1年コースの研修を受けています。

アジア、アフリカ、中南米などの開発途上国からの研修員で、4月に来日した人が大半のため、日本での日常生活に親しむことができるよう、日本語研修などのカリキュラムが組まれています。

南春日丘五丁目の閑静な住宅地の一角に、大阪国際研修センター（略称OITC、中村信所長）があるのをご存知ですか。

OITCは、政府開発援助（ODA）を実施している国際協力事業団が設置の研修、宿泊施設

ミ市と交流 西陵中生が 学校紹介ビデオ制作

「自分たちで作ったビデオでミネアポリスの人たちと交流しよう」と、西陵中学の1年生15人が、懸命にビデオ制作に励んでいます。

これは、昨年6月来茨したミネアポリス市文化交流訪問団に託された、ミネアポリス市の小学校を紹介したビデオに応じて作られているもので、そのビデオには、学校生活の紹介、校長先生のお話しなどのほか、子どもたちの自己紹介と「ぜひ返事のビデオを送ってください」とのメッセージが収められていました。

これを社会科の教材として見た穂積小学校で、返事のビデオを作りたい人はいますかと子どもたちに尋ねたところ、15人が申し出、さっそく制作にとりかかりました。

指導は中井浩平先生（現在安威小学校教諭）がされていますが、企画・脚本・撮影はすべて子どもたちの手作り、この4月

に撮影を開始したところです。

内容は、寺・神社、桜、こいのぼり、五月人形などの日本独特なものの紹介や学校の様子などを中心に、お好み焼きやなっとうなどの日本の食べ物などを収め、5月完成を目指して順調に撮影が進んでいます。



モデルもナレーションも全部自分たちで

また、研修員は母国で中堅幹部として活躍している技術者、研究者、公務員など妻子を残しての単身での来日者が多く、気候、風土、言語、習慣などの異なる日本での生活が味気ないものとならないよう福利厚生に配慮がされています。

の交流深める 研修センター研修員

センターの正面玄関を入ると、掲示板に催し物のポスターがいろいろ貼られています。その中の1枚に「ホームビジットに参加しませんか」のポスターがありました。昨年から協会姉妹都市活動室（岡田資子委員長）の会員が、春・秋の2回、研修員を家庭のティータイムに招いて、家族ぐるみで

交流し、親善に努めていただいています。日本での知人が少ない研修員には好評で、当日だけでなく、クリスマスや正月に家庭に招かれるなど、交流が深まっています。

また、青少年活動室（会長：谷垣俊朗太田中学校教諭）では、英語に親しみながら、外国人と接して物おじしない国際人の育成を目的に、毎月の例会にゲストとして招き、カタコトの日本語とカタコトの英語で楽しいひとときを過ごしています。

地元の春日丘地区とのつながりも深く、地区の体育祭や盆踊りなどにも参加するなど、民間交流が続いています。

皆さんも街角で研修員に出われたら、“こんにちは”と声をかけてあげてください。きっと習いたての日本語で返事がかえってきますよ。

茨木市における国際交流の足あと

— 第9号以降の経過 —

(1987年)

- 62.12 中国・内蒙古歌舞団一行24人来茨。市民会館大ホールで公演 (内蒙古歌舞団・茨木実行委員会主催、茨木市後援)
- 12 「姉妹・友好都市ニュース」第9号発行
- 12 協会理事辻野良彦氏ほか市立南中学校教諭4人安慶市訪問



(1988年)

- 63. 1 ミネアポリス市少年野球チーム監督ガーリー・ダウニング氏来茨。今夏来茨予定のミネアポリス市少年野球チームとの親善野球試合ほか交流内容について打合せ
- 1 インドネシア共和国東ジャワ州廃棄物技術研修生来茨。市立環境衛生センター見学
- 1 ベルギー・カトリックルーバン大学生一行10人来茨。市立環境衛生センターほか見学
- 3 前米国副大統領ウォルター・モンデール氏(ミネソタ州出身)ミネソタ州と日本との貿易拡大のため来阪。大阪ロイヤルホテルで講演 (Peer 会主催、タイトル「ミネソタ州—地域経済時代に於ける技術革新を担う地—」)
- 4 ミネアポリス市のジョン・大島、ナミエ・大島夫妻来茨
- 4 韓国・馬山青年会議所一行16人来茨
- 5 茨木市民親善訪中団一行21人安慶市訪問



迎える重富市長
内蒙古歌舞団を

京都でくつろぐダウニング氏



日本庭園での大島夫妻



重富市長のあいさつを
受ける馬山JC一行

寄付

本市の国際交流
事業の推進のため

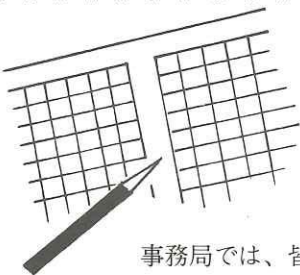
にと、次のかたがたから温かいご寄付をいただきました。心からお礼申し上げます。(12月～4月、敬称略)

<協会へ>

12月・茨木フェスティバル協会
(1,317,701円)

<市へ>

12月・古山信直、通代、智弘、
雅彦(各50万円)、4月・本谷
商事株式会社(100万円)



みなさんの 投稿まっています

事務局では、皆さんの投稿をお待ちしています。

身のまわりで行われている交流の紹介、市や協会の活動
についてのご意見・ご要望など、どしどしお寄せください。

<投稿先>

茨木市国際親善都市協会事務局 (〒567 茨木市駅前三丁目8-13
茨木市役所自治推進課内 電話0726-22-8121内線2143)